は、宿もがな五月雨、霧、戀の煙、千鳥、くるは、夜は、ゐじのたく火をそれとみよ、浦初島雪、ゆ攝州きて見まし、湊こす、鹽風、歌島はりまの舟の浦島、丹後、つり舟、うつせ貝、浦うしらしまの子が箱、しからみづの江のしまがすむ春の明ぼのあけば又くや宇土小島肥後おもひのこなが月、むれ浮島奥州松、人の心をへにうきしまぬれぎぬ浮しまの鹽がまの宇留間島非日本歟、一説なれやき我なこふとの云と、おぼつかなしらずがほうなるま野島近江ぢ同名多し、庵、紀州には、あこれのうらの玉ぞひろはぬ、淡路には、朝なぎ能登島たとぶさ音きこゆみけつくに野じまのあまの船にあるらん、玉もかる、夏くさ、八雲御説、近江おきつ島紀州木きたるてしふのしとものしく山けふみ攝州ま難波浦にそむきてみゆるおもくなれば世神さび、奥島ぎまふ舟はつりをすらしも、

興小島さて神、はこれぢをわがこえくれば、いづの海やおきのこじまにこ波のまにるわれゆ、隱岐あり有二同名一、日晩、薩摩にも有二同名一、

興津借島長門へくまよとおやにしはつげ風八重のお老津島三河ん波も老津島さはらしずまわもらるは神やいうらむおのころ島あなぢ

云也、總名也、大島備前に水をはつこびしぢのかたのの大しまにらくもしまにあひもみてしばしかなし、思ふ事なをしてきぬ、大しまにし大のしまけのぢなはるとはなにくけて年のへぬ、ら人の都にしと急へぐらかひとないへ大るしまの伊豆なだ也、大和島あなまのさながるぢを漕くれば、あかしのくとよりやまきとしまみゆ、やまとしまは有歟、八十島に奥州り晴鹽てがやまそのしまらかけ風日本の總名を云也、いづのくとよりやまきとしまみゆ、やまとしまは有歟、八十島に奥州り晴鹽てがやまそのしまらかけ風

月、しまや、あこのすて衣、時雨、老の波、しほやくあまたり、をじ鹽のけぶりの末、松賀浦同右音に聞松ふ

も、しほ木、あふこと、又月を、まつしまなど、そへたり、をじ鹽のけぶりの末、松賀浦同右音に聞松ふ

て菊のめる月かげかけいてく度つろいにけりけ八島近江ぎりけぶ松島奥州あしあたづ衣、うつ、戀、千鳥、紅葉、

ぞみるむべも心あるあまはすみけりもしほ火、霜、月、しほ、常夏の花、しほやき衣、

かぜ、雪、あまのも心しほる木、あしたづ、しほのひる、藤、都の、つと、籬島同右、卯花、螢、常夏の花、しほやき衣、

秋ぎりこのにやりきのしまがきのしまがまのまがきの島の松ぞ戀し我せこ槇島山城、衣うつ、あじろ、宇治河の

みのの島人舟也小松島丹波小松千代を君に始てゆまづれ島鶴しか島筑前たてるしか糟屋郡、有二神社一、連歌、弓はりの月く

よばふ人にあそぶなれ

どのの入かにでもおしのび島八雲御説繪島あはぢ雪、みなと、山、とこと、うつす松、霞、櫻、月、千鳥、紅葉、江島相鹽州ぢぞえ跡のたしるゝ、神はし

ちかなるべしひめ島攝州小松がいうもが名は千世にながつれる、或云豐後、引島備後、網なは、百津島云相州、或伊豆

とおほみめこそかるらめ心は思へどき見目浦班島肥前須賀島紀州あひだもなきて我思へなくに

志賀小島筑前の舟、すめ神、人

〔日本書紀神一代〕於是陰陽始遘合爲夫婦、及至產時、先以淡路洲爲胞、意所不快、故名之曰淡路洲、迺生